

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	4 0	実施時間数	4 0
担当教員	舟木 宏直				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	近年鍼灸治療を選択する患者が増加しつつある、神経疾患や婦人科疾患の現代医学的な病態や治療法を理解する。 本授業の履修により、臨床現場における適応疾患の見極め、あはき治療の方針の検討が可能となる。また、国家試験レベルの問題を解くことができることを目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社、2 0 0 4				

具体的な到達目標	
目標1	主な神経疾患の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標2	主な婦人科疾患の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標3	主な感染症の原因、病態、症候について説明することができる。
目標4	主な耳鼻科疾患の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標5	主な眼科疾患の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標6	主な膠原病の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標7	麻酔の種類について説明することができる。
目標8	主な精神疾患、心身症の成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	9 / 2 0		
	前期試験のみ		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	脳梗塞、一過性脳虚血発作の原因と症状について学ぶ。	
2	脳出血、クモ膜下出血の原因と症状について学ぶ。	
3	各種感染性髄膜炎の違いを学ぶ。 神経梅毒、ポリオの疫学、原因および症状について学ぶ。 各種脳腫瘍の悪性度と症状について学ぶ。 脊髄腫瘍の症状について学ぶ。	
4	パーキンソン病とパーキンソニズムの原因、症状および治療について学ぶ。	
5	ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、ウィルソン病の原因、症状について学ぶ。	
6	脊髄小脳変性症（多系統萎縮）の3系統についてそれぞれの症状の出方の違いについて学ぶ。	
7	脊髄空洞症の症状の出現機序を考える。 進行性核上性麻痺の症状について学ぶ。	
8	アルツハイマー型認知症の疫学、原因、症状および治療について学ぶ。 アルツハイマー型以外の認知症の原因と症状について学び、アルツハイマー型認知症との違いについて考える。	
9	重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症の原因、症状、予後について学ぶ。	
10	ギランバレー症候群、末梢神経障害の原因と症状について学習する。ベル麻痺とラムゼイハント症候群の違いについて学習する。	
11	各種神経痛、頭痛の原因、症状について学習する。	
12	関節リウマチの疫学、原因および症状（特に手指の変形）、検査結果について学ぶ。	
13	全身性エリテマトーデス、全身硬化症、ベーチェット病、多発性筋炎、多発動脈炎、食物アレルギー、血清病の疫学、原因、症状および検査結果について学ぶ。	
14	細菌感染症の原因菌と症状について学ぶ。ウイルス、性感染症の原因と症状について学ぶ。	
15	小児神経症と小児夜尿症について学習する。 女性特有の各種癌疾患、更年期障害の原因と症状について学習する。	
16	月経異常、不妊症の原因と症状について学習する。	
17	各種皮膚科疾患、眼科疾患の原因、症状および治療について学習する。	
18	各種耳鼻科疾患について学習する。伝音性難聴と感音性難聴の違いについて学習する。	
19	損傷、ショック、外科的感染症について学習する。 麻酔の種類と適応について学習する。 ＊救命措置と心肺蘇生法は別途教授する。	
20	各種神経症、統合失調症、うつ病、アルコール依存症、心身症、摂食障害について学習する。	
その他の事項		
学習におすすめ書籍は、『病気がみえる』シリーズです。		
10月以降に3コマ授業がありますが、前期科目の設定となりますので、試験等の評価はありません。		

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	(前期) 中嶋 邦統 (後期) 松尾 卓				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	(前期) 医療従事者は、臨床現場における倫理・法・社会や文化的な諸問題を認識し、それらに適切にかつ迅速に対応することが求められる。そのため、施術者として必要な職業倫理や患者との関わりを学習する。 また、医療で使われている専門用語を理解することは、他の医療従事者と情報共有するために必要なものである。そのため、鍼灸・あん摩・マッサージ・指圧師にとって必要な専門用語を学習する。[到達目標 1～9]				
	(後期) あん摩マッサージ指圧・鍼灸は医療の一端を担う治療法であり、これを安全に提供する、または患者さんが安心して享受するためには、どのような状態であれば「安全・安心」であるのかということを知ることが必要不可欠である。 そのために本授業においては、それらの知識・経験の集積であり、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の根拠法たる「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（以下、あはき法）」を中心に、その他医事・薬事・保険・福祉・衛生関係法規について学習する。[到達目標 10～14]				
教 科 書	(前期) なし (後期) 前田和彦、関係法規 第7版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	医療における歴史的な憲章や宣言の概要について列挙することができる。
目標 2	インフォームド・コンセントの内容について説明することができる。
目標 3	チーム医療における各専門職の特徴について列挙することができる。
目標 4	我が国の医療制度（医療機関、医療行政組織、医療保険）の特徴について列挙することができる。
目標 5	少子高齢化社会の医療保障やノーマライゼーションの特徴について列挙することができる。
目標 6	介護保険制度について説明することができる。
目標 7	災害医療の特徴について列挙することができる。
目標 8	バイオエシックスの特徴について列挙することができる。
目標 9	脳死と臓器移植について説明することができる。
目標 10	あはき法制定の目的とその必要性について説明することができる。
目標 11	免許の資格要件、免許に関する事務について説明することができる。
目標 12	業務の範囲、制限行為・禁止行為について判別することができる。
目標 13	施術所に関する規定について列挙することができる。
目標 14	あはき法以外の医事法規及び福祉・保険・衛生関係法規について、概要及び制定の目的等を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	9 / 12 (木)	1 / 16 (木)	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンスを行う。 医療における主な歴史的宣言や憲章を学ぶ。	9/15 まで担当：中嶋
2	医療倫理の概念について学ぶ。 医療倫理の4原則について学ぶ。 パターナリズムと患者中心の医療について学ぶ。	
3	インフォームド・コンセントについて学ぶ。 セカンドオピニオンについて学ぶ。	
4	医療従事者の人数やその特徴について学び。 保健医療サービスの提供体制について学ぶ。	
5	医療政策と医療計画について学ぶ。	
6	少子高齢化社会の医療保障について学ぶ。 ノーマライゼーションについて学ぶ。	
7	介護保険制度の概要について学ぶ。	
8	介護保険制度の概要について学ぶ。	
9	災害医療について学ぶ。 受療委任制度の概略について学ぶ。	
10	バイオエシックス（安楽死と尊厳死）について学ぶ。	
11	バイオエシックス（終末期医療）について学ぶ。	
12	バイオエシックス（脳死と臓器移植）について学ぶ。	
13	バイオエシックス（人工妊娠中絶と出生前診断、生殖医療）について学ぶ。	
14	守秘義務と個人情報保護法について学ぶ。	
15	前期で学習した内容の総復習を行う。	

16 あはき法の制定の目的と必要性について学ぶ。
免許制度の意義及び免許の資格要件について学ぶ。

9/26 より担当：松尾

17 免許に関する事務、施術者の身分について学ぶ。

18 業務の範囲と施術に関する注意、施術所に関する規則を学ぶ。

19 施術所の名称の制限及び広告の制限について学ぶ。

20 学校及び養成施設の認定、入学・入所資格等について学ぶ。
指定試験機関・指定登録機関の役割について学ぶ。

21 施術者、施術所、指定試験（登録）機関に対する罰則の範囲及び量刑を学ぶ。

22 病院、診療所等の医療法に規定される施設について、その要件等を学ぶ。

23 医師及び他の医療職種の免許と業務について学ぶ。

24 薬剤師法及び医薬品医療機器等法について、その目的・意義を学ぶ。

25 健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法について、その概要及び差異を学ぶ。

26 介護保険法、労災保険法について、その概要及び差異を学ぶ。

27 社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法について、その概要及び目的、対象を学ぶ。

28 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者自立支援法について、その概要及び目的、対象を学ぶ。

29 地域保健法、母体保護法について、その目的・意義・成り立ちと変遷を学ぶ。

30 精神保健福祉法、健康増進法について、その目的・意義、対象を学ぶ。

その他の事項

（後期）「法」というと非常に堅苦しい印象を受けますが、みなさんの身近な例、これから相対するであろう事象を取り上げながら、この授業で学ぶ「法」に親しみを感じてもらえればと思います。特に「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の内容は将来開業をする際に必要となる知識ですので、国家試験のみならず、卒業後のことも見据えて学んでください。

専 門 分 野 (あん摩マッサージ指圧理論) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	川口 隼子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	現代医療や福祉の環境が変化する中で、あん摩マッサージ指圧は「未病治」を基本とする伝統医療の1つである。あん摩マッサージ指圧の基本的な理論や手技を正確に理解して、あま指の治療を求めて来院される患者に対して、東洋療法の理論について正確に説明し、適切な手技を使用しての施術が必須である。そのために理論と手技との両輪を学習する				
教 科 書	東洋療法学校協会編、あん摩マッサージ指圧理論、医道の日本社、1 9 8 8 年				

具体的な到達目標	
目標 1	あん摩マッサージ指圧の沿革の相違について説明することができる。
目標 2	あん摩マッサージ指圧の手技の相違点について説明することができる。
目標 3	あん摩マッサージ指圧の作用について説明することができる。
目標 4	あん摩マッサージ指圧の治療効果について説明することができる。
目標 5	古法あん摩の手技を現代の手技に置き換えて説明することができる。
目標 6	西洋医学的な見地から生体に対する機転を説明することができる。
目標 7	物理療法についての定義、種類について説明することができる。
目標 8	物理療法の使用方法を学習し応用できる。
目標 9	物理療法の禁忌一般について説明することができる。
目標 10	卒業後、開業、勤務先での患者に対して適切な処置がすばやくできる。(車椅子など)

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	90%			
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	10%	算出方法	全出席を 10 点。1 回欠席毎に 2 点減点。遅刻や早引きは 3 回で 2 点減点とする。	算出方法
その他	算出方法		算出方法	
試験日	7 / 2 3			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	鍼灸あん摩マッサージ師の資格を有する。治療院を開業する。		
実務経験をいかした教育内容	あん摩、マッサージ、指圧の手技を実際に行う。		
	あま指の手技の相違点について実際に行う。		
	開業や病院、治療所などに勤務した時の注意点について。		
	ヒヤリハットの実例、失敗例を挙げて事故を未然に防ぐ注意を促す。		
授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/9	あん摩の意義と沿革について。古法あん摩の著書と著者について。	
2	4/16	マッサージ、指圧の意義と沿革について。あま指の相違点について	
3	4/23	あん摩の基本手技と作用について。マッサージの手技と作用について。	
4	5/7	指圧の手技と作用について。手技に関する練習問題。	
5	5/14	あま指の生体作用の機転について。循環器、血管リンパ管、血液に及ぼす作用について。	
6	5/21	体性神経に及ぼす作用、自律神経に及ぼす作用、圧発汗学説、ストレス学説、ゲートコントロール学説について。	
7	5/28	皮膚、筋肉、関節、消化器、呼吸器、全身に及ぼす作用について。	
8	6/4	運動法の一般。他動、自動介助、自動、抵抗、矯正法について。運動時の体位について。	
9	6/11	あま指の治療効果について。興奮、鎮静、反射、誘導、矯正作用の相違点について。作用や学説についての練習問題。	
10	6/18	東洋医学の健康感。経絡経穴、流注について。古法あん摩について（按摩手引の手技）	
11	6/25	導引口訣鈔の読み下し。按腹の実技（白衣着用）	第2実技室。
12	7/2	あま指の応用分野について。医療、看護、産業、乳房、保健、スポーツ、結合組織マッサージについての応用分野と特徴について。	乳房の模型使用
13	7/9	物理療法の意義と種類。電気、光線、温熱、寒冷療法の作用と禁忌について。	パラフィン浴使用
14	7/16	物理療法の続き。水治、風呂の歴史、温泉療法について。あま指の適応と禁忌について。	
15	7/30	テスト返却。車椅子の実技（白衣使用）	実技室使用。
その他の事項			
国家試験必須の科目なので仕事優先で休まない。体調管理に注意する。教科書メインなので忘れないこと。			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	7 2	実施時間数	7 2
担当教員	上田恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇しやすい症候、疾患に対して西洋・東洋医学の両面から診断、治療の概要の理解を目的とする。				
教 科 書	教科書執筆小委員会、東洋医学臨床論＜あん摩マッサージ指圧編＞、医道の日本社、 1 9 9 3 年 教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論、医道の日本社、 2 0 1 5 年 奈良信雄ら、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版社、 1 9 9 1 年				

具体的な到達目標	
目標1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標3	疾患、症候に対するあま指の手技を説明できる。
目標4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70 点		70 点		
平常点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
出席点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
その他	30 点	算出方法	30 点	算出方法	小テスト 10 点×3 回
試験日	9/2、1/24				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	鍼灸師の免許を有する。自宅開業、治療院勤務経験あり
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で想定しうる疾患に対し、古典的鍼灸をベースとし、現代医学的観点も踏まえ効果的な治療方法を体现する。具体的な症例、臨床例を列举しながら授業を展開する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	授業概要説明、痛みの分類	
2	腹診（『難経』十六難、『傷寒論』）	
3	脈診（脈状診、六部定位）	
4	治療原則、治療計画	
5	不眠の病態と治療	
6	発熱の病態と治療	
7	歯痛の病態と治療	
8	高血圧・低血圧の病態と治療	
9	のぼせ、冷えの病態と治療	
10	疲労と倦怠の病態と治療	
11	一時的頭痛、二次性頭痛の鑑別	
12	非定型顔面痛、三叉神経痛、舌咽神経痛の病態と治療	
13	末梢神経障害の病態と治療	
14	顔面麻痺、耳鳴り、難聴の病態と治療	
15	前期試験	
16	試験解説	
17	排尿障害、EDの病態と治療	
18	気管支喘息、咳嗽の病態と治療	
19	胸痛の病態と治療	
20	円形脱毛症、発疹（蕁麻疹）の病態と治療	
21	肩凝りの病態と治療	
22	頸肩腕痛の病態と治療	
23	肩関節痛の病態と治療	
24	上肢痛の病態と治療	
25	腰下肢痛の病態と治療	
26	膝痛の病態と治療	
27	運動麻痺の病態と治療	
28	コンパートメント障害の病態と治療	
29	アキレス腱炎の病態と治療	
30	運動療法の病態と治療	
31	老年医学の特徴、老年者の疾患とあん摩マッサージ指圧	
32	老年医学の特徴、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア	
33	各種の療法（ストレッチング）	
34	各種の検査、テスト法まとめ	
35	後期試験	
36	試験解説、総合問題	

その他の事項

<授業の概要>：毎時間教科書及び配布資料を用いて授業を進行します。

<受講するうえでの決まり事>

- ・スマートフォンや携帯電話について：講義中の使用・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。
- ・配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。
- ・その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合があります。

<教員から>

東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、総論、リハビリテーション、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨しています。

基礎分野

(あま指総合実技) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 2
担当教員	松尾卓・上田恵介・佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	あま指実技Ⅰ・Ⅱで学習した内容に、より臨床に使える技術や思考を付加することを目的とする。また、本校で主として学ぶ手法以外の技術を学ぶことにより、自身が学んできた手技の特徴を認識し理解を深めることを目的とする。				
教 科 書	特に指定はしない。				

具体的な到達目標	
目標1	経脈の流注を説明できる。
目標2	要穴の性質と位置を説明できる。
目標3	経脈・要穴を活用したあん摩施術ができる。
目標4	線状揉捏を指示通り行うことができる。
目標5	前額面、矢状面、水平面におけるマルアライメントを鑑別することができる。
目標6	マルアライメントの原因及びそれがもたらす影響について考察することができる。
目標7	肩・肘・股・膝関節の徒手筋力検査について、グレード3以上を正確に実施することができる。
目標8	神経筋促進法の目的及び方法を説明することができる。

評価と試験					
前 期				後 期	
試験成績					
平常点	80%	算出方法	その他事項に記載		算出方法
出席点	20%	算出方法	その他事項に記載		算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。自宅開業、治療院勤務経験あり。 〔松尾・佐藤・上田〕 本校附属治療所で3年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	本授業においては3名の教員が担当するが、東洋医学の現場や西洋医学の現場における多様な実務経験から、あん摩マッサージ指圧師の臨床上必要となる施術方法や診察技術を教授することができる 本校で学ぶ基本的な手技に加え、より臨床に則しあん摩マッサージ指圧師の臨床上必要な診察技術の取得、また得られた検査結果から東洋医学的および西洋医学的な患者の病態の把握ができるように教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、経脈・経穴を活用したあん摩施術の有用性について	
2	手の陰経・臓の病証の確認と経脈を活用するあん摩施術	
3	手の陰経の要穴の確認と要穴の性質を用いたあん摩施術	
4	手の陽経・腑の病証の確認と経脈を活用するあん摩施術	
5	手の陽経の要穴の確認と要穴の性質を用いたあん摩施術	
6	足の陰経・臓の病証の確認と経脈を活用するあん摩施術	
7	足の陰経の要穴の確認と要穴の性質を用いたあん摩施術	
8	足の陽経・腑の病証の確認と経脈を活用するあん摩施術	
9	足の陽経の要穴の確認と要穴の性質を用いたあん摩施術	
10	背部俞穴の確認と俞穴の性質を用いたあん摩施術	
11	坐位のあん摩	
12	吉田流あん摩術の線状揉み	
13	吉田流あん摩術のその他の手技	
14	姿勢の評価	
15	徒手筋力検査	
16	神経筋促通法	
その他の事項		
【平常点について】 各教員で算出する。配点割合は授業担当回数による。〔松尾〕15点、〔上田〕15点、〔佐藤〕50点 実習忘れ1回につき2点減点。 無断欠席・遅刻1回につき2点減点。 授業に参加しない場合1回につき5点減点。 授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合1回につき5点減点。 【出席点について】 1回の欠課で5点減点。2回の遅刻および早退で1点減点		

専 門 分 野

(臨床実習Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	135	実施時間数	136
担当教員	川口/松尾/佐藤/上田/中/高本				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。 施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	平成30年度 臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に積極的に参加することができる。
目標2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価						
前 期				後 期		
試験成績	なし			なし		
平常点	なし	算出方法	後期と合算で算出	15 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	なし	算出方法	後期と合算で算出	40 点	算出方法	その他の事項に記載
フロント施術	なし	算出方法	後期と合算で算出	45 点	算出方法	その他の事項に記載
試験日	なし					

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師の免許を有する。自宅開業、治療院勤務経験あり。 〔川口・松尾・佐藤・上田〕本校附属治療所で3年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	（あん摩マッサージ指圧） あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて施術ができるように教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1 ～ 68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他事項

<平常点> ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、忘れ物など） ・ポートフォリオの提出状況 ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日の場合は事前の電話連絡） ・届け出なしの遅刻・欠席、指定期間の欠席 ・令和元年7月、9月の欠課、令和2年1月以降の欠課 <出席点> ・出席が3/4に満たない場合は加点なし（1回の欠課で1～2点の減点となる） <フロント施術> フロント施術回数／クラスの平均フロント施術回数 *全コマ終了時のフロント施術回数が、クラスのフロント施術回数に対し75%未満の者に関しては、臨床実習の評価がでないものとする。

専 門 分 野

(手技療法概論) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	6 4	実施時間数	6 4
担当教員	松浦 英世				
授業形態	講 義	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った基礎医学や按摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、 各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に患者さんに合った治療法を学習する。				
教 科 書	関西運動器障害研究会編、スポーツマッサージ、KATA、2011 年				

具体的な到達目標	
目標 1	四肢のスポーツ障害を中心にした治療をすることができる。
目標 2	体表観察、触診を行いスポーツ障害の発症機序への理解を深めることができる。
目標 3	体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 4	骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 5	関節編スポーツマッサージと牽引性運動法を行うことができる。
目標 6	スポーツ障害の発症機序を理解し適切なマッサージ手技治療を行うことができる。
目標 7	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 8	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	試験成績	100%
平常点	算出方法	平常点	算出方法
出席点	算出方法	出席点	算出方法
その他	算出方法	その他	算出方法
試験日	9 / 1 3	試験日	1 / 3 1

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	治療の概要の説明	
2	頭部の経絡と経穴を説明しあん摩実技治療	
3	頸部 頸椎および筋の位置と触診を行いあん摩実技治療	
4	斜角筋症候群 筋と神経叢に対するあん摩実技治療	
5	肩背部の治療部位と経絡を説明しあん摩実技治療	
6	腰部の急性を説明しあん摩実技治療	
7	腰部の慢性を説明しあん摩実技治療	
8	殿部の梨状筋と坐骨神経を説明しあん摩実技治療	
9	胃疾患 肋骨弓角と胃の位置の説明しマッサージ治療	
10	肝胆脾 十二指腸周囲の疾患について説明しマッサージ治療	
11	大小腸 便秘と下痢について説明しマッサージ治療	
12	泌尿器疾患 腎・膀胱疾患について説明しマッサージ治療	
13	婦人科疾患 月経と更年期疾患について説明しマッサージ治療	
14	呼吸器 風邪と気管支について説明しマッサージ治療	
15	心臓 不整脈と動悸について説明しマッサージ治療	
16	神経症 ストレスと頭部の触診について説明しマッサージ治療	
17	眼科疾患・耳鼻疾患 顔面部について説明しマッサージ治療	
18	顎関節・歯科 下顎について説明しマッサージ治療	
19	咽喉疾患 患部の触診について説明しマッサージ治療	
20	乳房マッサージ	
21	足部 アーチの触診を説明しマッサージ実技	
22	足関節 靱帯の位置と触診を説明しマッサージ実技	
23	下腿部 ヒラメ筋と腓腹筋の位置の相違を説明しマッサージ実技	
24	膝関節 半月板と靱帯の位置と動きを説明しマッサージ実技	
25	大腿部 赤筋・白筋の説明をしマッサージ実技	
26	股関節 触診と検査法を説明しマッサージ実技	
27	殿部 深部の筋と体表の筋の説明をしマッサージ実技	
28	手部 手根骨の配列と触診を説明しマッサージ実技	
29	手関節 手関節の動きについて説明をしマッサージ実技	
30	肘関節 内側・外側の筋の相違を説明しマッサージ実技	
31	肩関節 構造とインナーマッスルの説明をしマッサージ実技	
32	太極療法 疾患に関係なく免疫力を上げる方法	
その他の事項		
各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアーとなり実技を行う。		

専 門 分 野 (リハビリテーション医学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	6 4	実施時間数	6 4
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学 第4版、医歯薬出版株式会社、2015年 上田敏著、目でみるリハビリテーション医学 第2版、東京大学出版会、1994年				

具体的な到達目標	
目標1	リハビリテーションの理念と組織について説明できる。
目標2	廃用症候群、過用症候、誤用症候、徒手筋力検査と関節可動域測定について説明できる。
目標3	装具、杖、自助具、車椅子について説明できる。
目標4	主要な大関節の運動学、および正常歩行と異常歩行について説明できる。
目標5	脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
目標6	脊髄損傷のリハビリテーションについて説明できる。
目標7	切断のリハビリテーションについて説明できる。
目標8	小児のリハビリテーションについて説明できる。
目標9	五十肩、変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、スポーツ障害、関節リウマチ、末梢神経障害の各リハビリテーションについて説明できる。
目標10	パーキンソン病、呼吸器疾患、心疾患の各リハビリテーションについて説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	1 0 0 %		1 0 0 %		
平常点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
出席点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
その他	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
試験日	8 / 2 7		1 / 1 4		

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	リハビリテーションの語源、ノーマライゼーション、自立生活運動	
2	障害構造、障害受容	
3	リハビリテーションの4領域、障害者雇用と特例子会社	
4	地域リハビリテーション、退院後の生活	
5	廃用症候群	
6	過用症候、誤用症候	
7	共同運動、連合運動、姿勢反射	
8	運動学とリハビリテーション医学	
9	機能回復の生理学とリハビリテーション医学	
10	運動治療学とリハビリテーション医学	
11	脳卒中のリハビリテーション概説	
12	脊髄損傷のリハビリテーション概説	
13	切断・小児・骨関節疾患・関節リウマチのリハビリテーション概説	
14	内部障害・がんのリハビリテーション概説	
15	脳卒中の急性期のリハビリテーション	
16	脳卒中回復期のリハビリテーション、リスク管理、脳卒中リハビリテーションのゴール	
17	脊髄損傷リハビリテーション	
18	脊髄損傷回復期、脊髄損傷ケアとリスク管理、切断と合併症	
19	切断のリハビリテーション	
20	小児のリハビリテーション	
21	いわゆる五十肩・頸腕障害・変形性膝関節症のリハビリテーション	
22	変形性股関節症・大腿骨頸部骨折・スポーツ障害のリハビリテーション	
23	関節リウマチのリハビリテーション	
24	末梢神経障害のリハビリテーション	
25	パーキンソン病のリハビリテーション	
26	呼吸器疾患のリハビリテーション	
27	心疾患のリハビリテーション	
28	リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療	
29	心身機能・身体構造の評価、活動の評価、参加の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価、運動年齢テスト、失行失認テスト、摂食嚥下障害の評価	
30	装具、杖、自助具、車椅子、義肢	
31	関節と関節の力学、姿勢とその異常、脊柱・体幹・肩甲骨・肩、肘と前腕、手と手指	
32	骨盤と股関節、膝関節、足関節、正常歩行と異常歩行、顔面および頭部の筋	

その他の事項

毎回の授業冒頭では、前回の授業の不明点等について質問時間を設けます。教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松尾卓/佐藤陽子/上田恵介				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	あん摩マッサージ指圧施術を行う際は、各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技の組み合わせやその応用から成り立っている。また、そもそも患者の身体状況を知るには、各種診察手技の修得が必要不可欠である。そのため、本授業においては、あん摩マッサージ指圧施術の実践的な知識・技術の修得を目標として、大きく以下のもので構成する。 ・あん摩、マッサージ、指圧の基本手技の確認 ・基本的なランドマークの触察方法の確認 ・東洋医学的な側面からの診察手技の確認 ・現代医学的な側面からの診察手技の確認				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標1	患者への挨拶、自己紹介、言葉遣い、施術内容の説明および言葉かけが適切に行える。
目標2	体位変換、無理のない体位の指示、衣服の扱いおよびベッド操作の旨を伝え安全に操作が行える。
目標3	患者に施術の旨を伝え、負担のない施術ができる。
目標4	危険な肢位や施術を回避できる。
目標5	手指の衛生管理を適切に行える。
目標6	【あん摩】指示通りの部位に施術が行えること。適切な施術姿勢、方法、リズム、圧度で丁寧かつスムーズに施術を行える。
目標7	【マッサージ】指示通りの部位に施術が行えること。適切な施術姿勢、方法、リズム、圧度で丁寧かつスムーズに施術を行える。
目標8	【指圧】適切な施術姿勢、圧の加え方、方向性、圧度で施術を行える。
目標9	指示された部位に手際よく不快感を与えないよう正確に触れられる。
目標10	脈状診を行い、東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標11	六部定位脈診を行い、東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標12	舌診を行い、東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標13	東洋医学的診察から得た情報をもとに証をたてることができる。
目標14	証に応じたあん摩施術ができる。
目標15	正確な運動方向に沿って、関節可動域を測定することができる。
目標16	徒手検査の意義や陽性所見について説明することができる。
目標17	安全かつ代償動作を防ぎながら、徒手検査・関節可動域測定を実施することができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績			60%（卒業認定実技審査）	
平常点	算出方法		10%	算出方法 診察法実技小テスト（1/8）
出席点	算出方法		30%	算出方法 欠席 1 回毎に 4 点の減点
その他	算出方法			算出方法
試験日			11/17(日)	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の実務経験	〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。 クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。自宅開業、治療院勤務経験あり。 〔川口・松尾・佐藤・上田〕 本校附属治療所で 3 年以上の実務経験あり。			
実務経験をいかした教育内容	〔川口・松尾・佐藤・上田〕 あん摩マッサージ指圧施術に纏わる実践的な知識・技術の学習			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	あん摩、側臥位	
2	あん摩、側臥位	
3	あん摩、側臥位	
4	あん摩、坐位	
5	あん摩、坐位	
6	指圧、伏臥位	
7	上肢の基本的なランドマークの触察方法の確認	
8	下肢の基本的なランドマークの触察方法の確認	
9	指圧、伏臥位	
10	指圧、伏臥位	
11	マッサージ、上肢	
12	マッサージ、上肢	
13	マッサージ、上肢	
14	マッサージ、下肢	
15	マッサージ、下肢	
16	脈診（脈状診）の方法、所見を習得する。	
17	脈診（脈状診）の方法、所見を習得する。	
18	脈診（六部定位脈診）の方法と所見を習得する。	

19	舌診の方法と所見を習得する。
20	東洋医学的診察法により証を立て、証に応じたあん摩施術を行う。
21	東洋医学的診察法により証を立て、証に応じたあん摩施術を行う。
22	ROM（上肢）
23	ROM（下肢）
24	整形外科的徒手検査（頸部・胸郭出口部）
25	上・下肢の基本的なランドマークの触察方法の確認 基本的なあま指手技の確認
26	上・下肢の基本的なランドマークの触察方法の確認 基本的なあま指手技の確認
27	整形外科的徒手検査（肩関節・肘関節・手関節）
28	整形外科的徒手検査（腰部・股関節）
29	整形外科的徒手検査（膝関節・足関節）
30	ROM（上肢・下肢）の確認
31	整形外科的徒手検査（上肢・下肢・体幹）の確認
32	診察法実技小テスト

その他の事項

〔試験成績〕

卒業認定実技審査（あま指）に合格であった場合、本科目の成績 60%を加算する。

但し、不合格の場合は加算しない。